

## ▼ 最新号 ▼

4月6日号ダイジェストニュース

### ◇木質チップ事業を強化

「川口ウッドリサイクル」竣工／県内3施設目、年6万t生産へ

- クワバラ・パンぷキン -

解体工事と建廃処理兼業のクワバラ・パンぷキン（さいたま市中央区）は埼玉県川口市の工業地域に木質チップの新プラント「川口ウッドリサイクル」を竣工。4月から営業運転を開始した。加須市内に稼働する既設の「パンぷキン・デポ」、「ほくさいウッドリサイクル」に続く県内3施設目の開設で、1日11時間稼働で日量約230トンの処理能力を持つ。

### ◇落札単価平均4万6751円/t

“ボトル to ボトル”など影響か／指定法人のPET有償入札で

（公財）日本容器包装リサイクル協会が3月に発表した2020年度上半期における指定法人ルートの廃PETボトルの落札結果発表で、有償分の落札単価の加重平均は1トン当たり4万6751円となったことが明らかにされた。市町村／再商品化事業者別にみると、関東では有償分で1トン当たり6万7000～6万8000円と、近年の中で高かった昨年よりも高値のケースがある。一方、新材のPET樹脂価格の安値が続いており、再商品化事業者や再生材ユーザーの間では、高値になっている再生PET樹脂価格とのスプレッドが看過できない状況になりつつある。

### ◇混廃・廃プラ類を燃料向原料化

受入物の性状に合わせて柔軟に対応／第1エコ・プラザに新ライン設置

- 旭商会 -

汚泥の資源化事業などを行う旭商会（相模原市、市川公豪社長）は2020年、物流拠点だった第1エコ・プラザに破碎・選別・圧縮梱包が可能なラインを設置し、本格稼働を開始した。焼却処分されていた廃プラスチック類や混合廃棄物を選別し、RPF原料やセメント工場での熱エネルギー代替として利用できる性状に整えるための設備となっている。

### ◇肥料の販路を積極的に拡大

食Rループ構築目指す

- パブリック -

パブリック（香川県観音寺市、川崎佳日出社長）グループの丸亀リサイクルプラザ（同県丸亀市）は、食品リサイクルループの構築を目指し、肥料の販路や用途を積極的に広げている。三豊オーガニックステーション（同県三豊市）と満濃工場（同県まんのう町）の2施設で堆肥化を展開しており、近隣農家や全国のホームセンターなどに出荷する他、自社農場でも活用。栽培した野菜は地元市民に販売し、好評を得ている。

◇廃瓦を骨材に緑化コンクリート開発

特許を申請、来年度に製品化へ

- 金沢工業大学／小松製瓦／エコシステム -

金沢工業大学や小松製瓦（石川県小松市）、エコシステム（石川県能美市）ら3者による研究グループは、廃棄瓦を有効利用した緑化コンクリートの実証実験を、2018年10月から金沢工業大学白山麓キャンパスで実施。このほど実用化に向けた一定の成果を得られ、共同で特許を申請した。今後も実験を通じて改善を行い、製品化は21年度を予定している。

◇8000Bq/kg以下、8割超に

栃木で放射能濃度を再測定

- 指定廃棄物 -

環境省は3月19日、栃木県内の農家が保管する指定廃棄物（8000ベクレル／キログラム超で10万ベクレル／キログラム以下）について、昨年7月下旬から11月下旬にかけて実施した放射能濃度の再測定結果を公表した。総量2993.2トンの内、8000ベクレル／キログラム以下のものは2416.9トン（80.7%）となったことがわかった。

◇木質ガス化熱電併給、試験運用実施

2段階でタール熱分解

- サナース -

廃棄物処理やバイオマス、林業などさまざまな機械の輸入販売を進めるサナース（横浜市港北区、海老原豊社長）は、木質バイオマスガス化熱電併給装置であるLiPROの輸入販売を開始し、今年2月には木更津マシンプークにて、1回目の試験運用を実施した。

ページ上部へ戻る